

WEB版「建築討論」レポーター報告書

レポーター

氏名	高増佳子
所属	米子工業高等専門学校

建築諸元 わかる範囲でご記入ください

名称	AIR475 (エアヨナゴ) 鳥取県米子市内の空き店舗や空き地を使ったアーティストインレジデンス事業のアートイベント空間		
設計者	米子建築塾 (地元建築専門家による任意団体) AIR475 担当: 高増佳子 (米子工業高等専門学校准教授) 吉田輝子 (米子工業高等専門学校研究補助員) 来間直樹 (クルマナオキ建築設計事務所) 白石博昭 (しらいし設計室) 白枝伸 (ばていなでざいん建築設計事務所)		
所在地	サイト1: 旧末次太陽堂 (空き店舗活用) 鳥取県米子市道笑町 1-28-1 サイト2: 米子市本通商店街紺屋町空き地 米子市紺屋町 33 その他、イベント時は米子市中心市街地周辺と加茂川・中海・港山公園など		
用途	以下サイト1のみ: 作品展示およびアートイベント空間	竣工年月	H26年10月
階数	地上 2 階	地下 0 階	屋上 0 階
構造種別	在来軸組工法 (木造) の軽微な改修		
運営団体	米子建築塾	施工会社	(有) まごころ+サイン技研+小沢電気+大光電機+セルフビルド
建築主 (事業名)	鳥取県文化政策課 暮らしとアートとコノサキ計画 鳥取藝住祭	設備設計者	

鳥取藝住祭 *鳥取県内8カ所のAIR事業に関わる芸術学校などのアート事業
総合プロデューサー 中島諒人 総合ディレクター 林 暁甫 アートディレクター 土屋勇太

AIR475 2014 (エアヨナゴ 2014)

アーティスト 戸井田雄 (静岡) カーン・リー (カナダ) シンディ・望月 (カナダ)
キュレーター 原万希子 (カナダ) 企画・運営 米子建築塾

制作期間 2014年8月5日 (火) ~27日 (水)、9月28日 (日) ~11月4日 (火)
展示期間 10月17日 (金) ~19日 (日)、25 (土)、26 (日)、31 (金) ~11月3日 (月・祝)
会場: サイト1 旧末次太陽堂 サイト2 本通商店街紺屋町空き地 観覧無料

展示以外にも以下のような多様なイベントを実施

- 10月13日 (月) プレイベント「カナダと米子の深い関わり」米子市長とアーティストの対談など
- 10月17日 (金) オープニングレセプション「アーティストトークなど」各会場移動しながら実施
- 10月18日 (土) ワークショップ「みんなで森をつくろうー紙粘土でクレイアニメーションを作る」
「AIR475 加茂川・中海遊覧」シンディ・望月のオーディオ作品を聞きながら体験する
「ハート&アロー: カーン・リービデオ屋外上映」中海夕暮れピクニックとして集客
- 10月19日 (日) ワークショップ「透明石けんでつくるダイヤモンドカット体験」カーンの映像にでてくるダイヤモンドカットを透明石けんで体験
- 10月25日 (土) 「戸板市 x 戸井田市」商店街の戸板市にあわせて AIR475 な市を展開
ライブ「AIR475+大山アニメーションプロジェクト スペシャルナイト」
- 10月31日 (金) 芸術学校「住友さん、アートをきっかけに町を変えていくには何が必要でしょうか？」
アーツ前橋館長を招いてトークイベント
- 11月1日 (土) ライブ「AIR475+よなごまちジャズプロジェクト スペシャルナイト」

■背景と概要「鳥取県のアーティストインレジデンス文化事業 > 米子のAIR事業 AIR475」

鳥取県では、文化政策のひとつとしてアーティストの移住定住を目的とした“アーティストリゾート構想”が掲げられている。そのため「暮らしとアートとコノサキ計画」というアーティストインレジデンス（通称AIR）事業が2012年からスタートしている。県内4カ所でスタートし2013年には米子市の運営団体として米子建築塾も参加しはじめた。それがAIR475(エアヨナゴ)である。米子建築塾としては、それまでも米子の建築やまちづくり活動を行っていたことから、米子の中心市街地商店街の空き店舗活用や地域の活性化として、AIRに取り組み、どのような方法が有効か模索している。今年(2014)は県内8カ所でのAIRにまつわるアート事業を「鳥取藝住祭」という名前で紹介された。



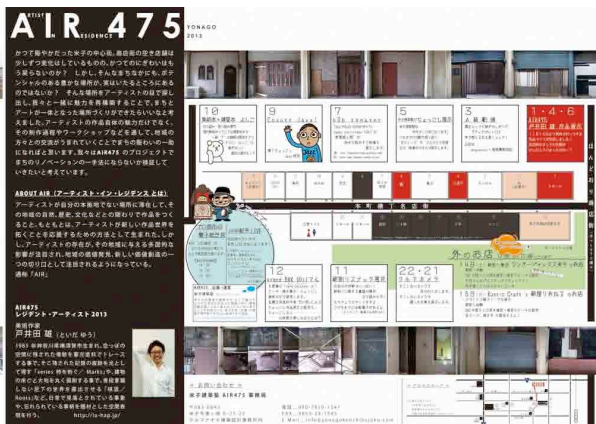
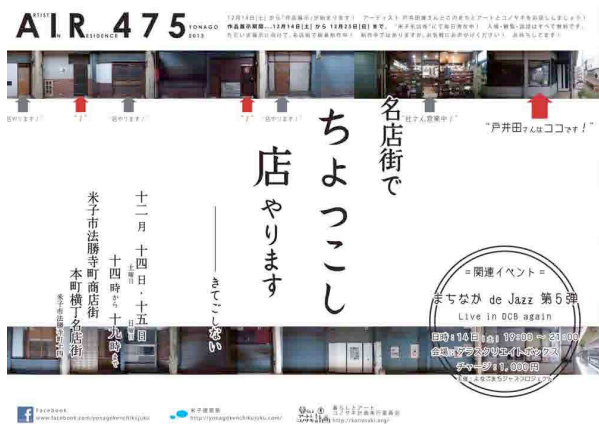
鳥取藝住祭のチラシ

暮らしとアートとコノサキ計画チラシ

AIR475 2013 と 2014 チラシ

AIR475は2013年度は静岡県熱海市在住のアーティスト戸井田雄1人を迎え、1ヶ月半ほどの滞在期間で米子市法勝寺商店街脇の本通横丁名店街の空き店舗を制作場所に、サイトスペシフィックな作品を3カ所制作いただいた。この名店街とはカウンターだけの飲食店が並ぶいわゆる横丁的な抜け道となっており、両側に20店舗並ぶ形式で営業店舗は残すところ2店舗だけであった。その他使えるすべての空き店舗を使って、アーティストの作品制作以外にも、地元アーティストや出店者を募り展示やイベントでにぎわっていた頃の名店街復活となるイベント空間を創出した。カメラの見せびらかし、立ち読み専門店、大人紙芝居など、さながら大人の文化祭のような盛り上がりであった。

アート作品自体もその場所や建築の特徴を生かした作品であったが、イベント内容も小さい店舗が並ぶという空間的な特徴を生かしたものになった。



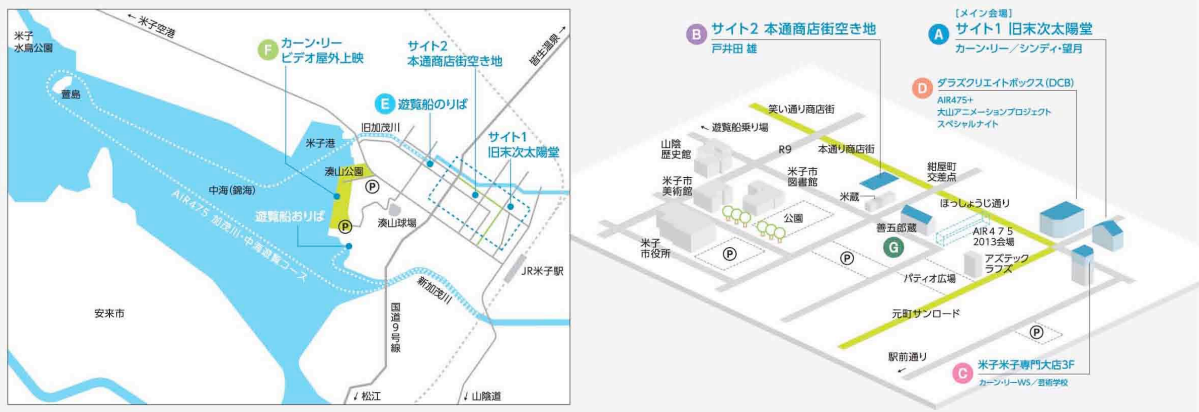
AIR475 2013 のイベント「名店街でちょっこし店やります」チラシ

2014年度は昨年度の戸井田雄に加え、カナダのバンクーバーからカーン・リー、シンディ・望月の3人のアーティストと同じくバンクーバーからキュレーターの原万希子も迎えて作品制作および展示や体験イベントを開催した。戸井田雄は昨年の会場だった名店街はすでに解体されていたので、今回は別のシャッター奥にあった空き地を制作場所を選び、家を想像させる金属メッシュの立体作品を制作した。原とシンディは一度事前リサーチに訪れ、米子からカナダに移住した人々の歴史や米子の中海(なかうみ)に浮かぶ無人島の逸話にインスピレーションを得て、これらを元にしたフィクションの物語をつくり、語りにも音響効果を加えたオーディオ作品と移民の歴史のドキュメント映像を組み合わせ、サイト1の空き店舗にインストールした。さらに、物語のオーディオ作品は、中海の無人島をめぐる遊覧船で聞かせる体験

型展示も実施した。カーンは、原が以前キュレーションした映像作品の上映により場所が米子の水辺にあるとし、その作品をもって屋外上映を実施した。あわせて以前展示したメガネのインスタレーションがサイト1の旧店舗がメガネ屋であったことから、あらためて展示いただいた。

3人のアーティストの作品は、その場所や空間を生かしながら、別の時間や場所をも想像させるような作品であった。特にカナダの二人は、商店街の空き店舗だけでなく、中心市街地周辺の水辺である中海がカナダのバンクーバーにもある港湾風景と類似する点としてキュレーター原にも強く印象づけ、そこが魅力的であるとして作品のロケーションにうまく取り込み、米子とカナダのバンクーバーをつなげる壮大な作品体験となった。しかも、カナダという空間的な飛躍だけでなく、100年前の米子からカナダに移住していった人々の歴史という時間も飛び越え想像させるなど、地域の価値や魅力を再発見する機会にもなった。

またアートの種まきというコンセプトのもとに、息の長い取り組みをもくろみ、来年度もAIR475は計画予定である。



左は屋外上映や遊覧船の会場をしめす地図 右は中心市街地商店街の展示会場の地図



戸井田雄「間/DUSK」 撮影：萱野雄一



カーン・リー「ハート・アンド・アロー」夕暮れピクニックとして中海湖岸で屋外上映



シンディ・望月「ペーパー／紙」中海の無人島を舞台にした物語のオーディオ作品を鑑賞する遊覧船

■特徴「AIR では作品成果も大切であるが、そのプロセスこそが地域の人々をつなぎお互いに学びあう場」

以前のレポートでも米子市の空き家を改修した事例を報告したが、地方都市のシャッター商店街に代表される空き家や空き地は加速度的に増え続けているし、全国で多様な試みがなされている。またアートイベントに使う事例も各地で報告されているが、ここでの特徴としてあげるならば、以下のような点である。

(1) アーティストインレジデンス事業の受け入れを地元建築団体が引き、関係者との調整を行う。

(米子建築塾) (米子高専)

アーティスト x キュレーター x ディレクター x 建築専門家 x 学生 x 地元商店街 x 行政など

(2) アートと建築のコラボレーションであるが、既存空き店舗を活用した展示空間にとどまらず、屋外空間での作品の見せ方や展示計画にも関わる > 使い方や捉え直しなど編集作業のようなもの。

■改修+編集 内容

メイン会場は空き店舗改修による2つの作品展示、サブ会場はシャッター奥の空き地で屋外展示であった。まずはこれらを見せるための展示空間づくりであるが、最小限の予算でもあったので、表のファサードづくりと作品を見せるライティングなどを行った。サブ会場はシャッターを下げてそのまま見せることもあり、白く塗ってサインをかけるだけであったが、展示空間を印象づけた。展示時間以外も、シャッターの持ち上げ用穴から作品が覗けるしかけとなる。

メインの空き店舗は、当時の店舗の内装が痛んだまま残り、ライティングのダクトレールなども残っていた。表の建具等は何もなく、シャッターで閉じただけのものであった。これらの建築要素を生かし、最小限の改修を行った。鳥取藝住祭のブランドを表示するサイン壁の設置と透明の波板による大きな木製建具で表のファサードを形作った。木製建具は単純な引き戸とし、簡易にオープンエアにできることも想定している。いずれにしても、内部の雰囲気を外に伝え、入りやすい雰囲気づくりのためのデザインとした。あとは、ライティングダクトに借り物のスポットライトやペンダントライトを下げて作品を照らしたり、空間を演出した。その他は作品展示のために必要な受付や展示用テーブルを用意した。さらに塗装などの自分たちでできることは米子高専の学生有志も募って、自分たちで行った。

また今回展示会場が2カ所に分かれたこともあり、二つの場をつなぐ商店街において、戸井田市(といたいち)というイベントを実施した。それまで商店街で開催されてきた人気の戸板市(といたいち)にちなみ、アーティストの戸井田の名前にひっかけたもので、ひとの流れをのぼそうと計画したものである。出展者も学生や関係者を募り、去年の「ちょっこし店やります」のノリで気楽に参加いただけたように思う。





メイン会場：旧末次太陽堂 ファサードと内部の作品展示風景 撮影：萱野雄一

日本海新聞 平成 26 年 10 月 15 日(水)広域 23 面



米子とカナダのつながりなどについて話す中から
原さん、望月さん、野城市長

米子滞在芸術家と市長対談

17日から
エアヨナゴ

つながるカナダ

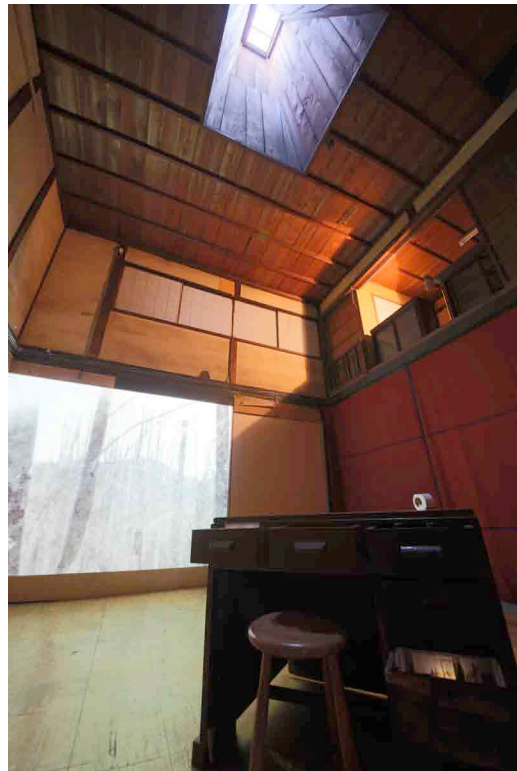
鳥取県内で開催されている「鳥取在住祭」2014に参加し、米子とカナダが交流を続けていることを紹介した。活動を行うカナダ在住のアーティストと野城市長が13日、旧末次太陽堂で対談した。米子とカナダのつながりなどについて語り合った。

対談は、同市連発町のレイアウト。市民の約80人が参加し、市長と、エアヨナゴのコーディネーターを務めるカナダ在住の原希子さん(47)、米子市に滞在して制作活動をしている日米4世代カナダ人のシンディ・望月さんが対談した。

1994年から継続して5年間、カナダに滞在した野城市長は「中海カナダ協会」を通じて中海圏の方々と交流を続けていることを紹介した。

望月さんは、1980年代に鳥取県から多岐の人がカナダに移住し、風華マート経営者などカナダの発展に貢献するなどと説明。「本金洋の反対に興味を持っていろいろなことがあってもいいかならば」と話した。

(冠立麗史)



メイン会場にてイベントで実施した市長とアーティストの対談の紹介新聞記事(左)とメイン会場暗幕の中は吹き抜けと天窗の異空間でシンディの音響・映像などによるインスタレーション 撮影：萱野雄一(右)



戸井田市に出店中のサブ会場シャッター前 奥に戸井田雄作品



戸井田市でにぎわう商店街の様子
(約 3000 字)